奈良県・韓国ゆかりの地紹介

第二弾　　高松塚古墳・高松塚壁画館

今年は、奈良県と韓国忠清南道が 2011 年に友好提携を締結して 10 周年を迎える記念の年です。これを記念して、奈良県内にある奈良と韓国とのゆかりの地、特に忠清南道とのゆかりを中心にご紹介しています。第二弾となる今回は、高松塚古墳と高松塚壁画館をご紹介します！

奈良県明日香村にある高松塚古墳は、1972 年に橿原考古学研究所の調査により、国内で初めて石室内に極彩色の壁画が発見された日本を代表する壁画古墳の一つであり、その壁画は国宝にも指定されています。また、2005 年の発掘調査により、藤原京期（694 年～710 年）の間のものと確定されましたが、被葬者は特定されていません。

高松塚古墳

壁画再現模造複写（高松塚壁画館内）

高松塚古墳壁画は、厚さ数ミリメートルの漆喰が塗られた石室の内面に四神図、人物群像、星宿図、日月像が描かれています。中でも西壁の「女子群像」は色彩鮮やかで、「飛鳥美人」の名でも親しまれています。

また、その構図や人物群像の服装や持ち物が、高句麗の水山里古墳（北朝鮮）や唐の永泰公主墓（中国）などに似ていると言われています。さらに、女性の服装から和風の要素もみられることから、当時の高句麗、唐と日本の間に文化的な繋がりがあったと考えられています。

高松塚壁画館内部（展示の様子）

現在、壁画は年に数回のみ公開されていますが、古墳に隣接している「高松塚壁画館」では発見当時の壁画を忠実に写し取った現状模写を見ることができます。また、模写壁画だけでなく、石槨（せっかく）内部の模型や副葬品の模造などが展示されていますので、高松塚古墳についてさらに詳しく知りたい方は、高松塚壁画館にもぜひ訪れてみてください。　　（奈良県国際交流員　南　炫汀）

高松塚古墳壁画修理作業室の見学に行ってきました！

日本国内に２つしかない極彩色壁画の実物を見ることができる、とても貴重な機会でした。

壁画は約 1400 年前のものとは思えないほど色鮮やかで、迫力があって感動しました。